

| 教育目標                  |               | 自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成 ～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～   |   |  |   |   |   |   |
|-----------------------|---------------|--|---|--|---|---|---|---|
| 重点目標                  |               | ①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成 ③開かれた信頼される学校づくり  |   |  |   |   |   |   |
| 項目                    | 重点項目          | 具体的施策  | 達成目標  | 自己評価   | 成果と課題   | 改善策   | 学校関係者評価   |   |
| 学<br>力<br>の<br>向<br>上 | 基礎・基本の徹底と授業改善 | <ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法の工夫改善を図る。</li> <li>「学習意欲（聞きたくなる・考えたくなる・伝えたくなる）を湧かせる学習活動」、「学力を身につけさせる言語活動を重視した学習活動」についての研修会や授業研究をもとに、全教職員が指導方法の共有をはかり、教員1人ひとりが指導方法の改善を行っていく。</li> <li>校内研修として全ての教員が年1回以上授業を公開する。</li> <li>公開授業後の教師同士の事後研究会が持てるよう、授業評価表を作成し活用する。</li> <li>公開授業において、できるだけ多くの教師が参観できるように、公開授業の時間に校内巡視がある場合は、公開授業を優先する。</li> <li>年1回CRTを実施し、その結果を授業に活かす。</li> <li>毎日10分間の終礼学習を実施し、基礎学力の定着を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教員が年1回以上公開授業をする。</li> <li>生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した割合が75%以上になる。</li> <li>生徒アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が80%以上になる。</li> </ul>   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>4月に公開授業の予定を立て、年1回以上の公開授業を実施している。</li> <li>公開授業と校内巡視が重なっている場合は、授業参観を優先したため、「教師間の参観が十分にできていない」は改善できている。</li> <li>月1回の授業に関する校内研修会については、教科・学年の枠を超えて職員全員で取り組んでいる。</li> <li>生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した割合が77%（前年度73%）、「先生は教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が86%（前年度83%）となった。数字は必ずしも上がっているとは言いがたい。この結果を謙虚に反省し、研修会や授業研究をもとに、教員一人ひとりが指導方法の更なる改善を行っていかねばならない。</li> <li>CRTの結果を参考に、特定教科で振り返り学習を強化し、各単元の理解力を上げる取り組みをおこなっている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度と同様、「学習意欲（聞きたくなる・考えたくなる・伝えたくなる）を湧かせる学習活動」、「学力を身につけさせる言語活動を重視した学習活動」についての研修会や授業研究をもとに、全教職員が指導方法の共有を図る。</li> <li>若い教師が増えているため、中堅教員、ベテラン教員で連携し、授業力向上のための若手自主研修会を開き、若手教員が学べる体制作りを引き続き行っていく。</li> <li>CRTの結果を参考にした振り返り学習を、より浸透させていく。</li> <li>「言語活動」や「協同学習形態」をより充実させるための手立てとして、週2回の『コミュニケーション・レーン』を実施し、生徒が主体的に活動できる授業づくりを行う。</li> <li>毎日10分間の終礼学習、放課後学習会などの補充学習を引き続きおこない、基礎学力の定着を図る。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が学習内容に興味を持ち意欲を高められるような授業作りのための研修について（例…抑揚のある話し方、学習のポイントを明確に示せるような工夫等）について、系統立てて新人研修を行っている企業等の研修を参考に、見直してもよいのではないかと考えている。</li> <li>これから社会に出る生徒に生活体験のことや幅広い物の見方を教える上で、若い先生方が教員以外の職種の方と交流する等、教科学習以外の雑学や常識等についての知識を得る機会があっても良いのではないかと考えている。</li> </ul> |   |
|                       | 学習習慣の獲得       | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の手引きを活用する。</li> <li>長期休業中、放課後、土曜休業日の補習学習の充実に取り組む。</li> <li>My学ノートの内容充実を図るため、低学力の生徒には基礎プリントを用意する。</li> <li>学期ごとに各教科の学習内容と家庭学習の方法をプリントにして配布する。保護者とも連携して、より一層家庭学習を充実させる。</li> <li>生徒が主体的にMy学を行うよう取り組む。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒を前年度より増加させる。</li> </ul>            | B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒が前年度より1%増加した。</li> <li>今年度よりWeekly宿題を課すようになり、家庭学習の習慣が身につくようになった。</li> <li>学期ごとに「各教科の学習内容と家庭学習の方法」をプリントにして配布することができた。これにより、保護者に学期が始まるごとに各教科の学習計画を提示することができ連携して家庭学習を充実させる手立てが整った。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科ともに欠かさずWeekly宿題を課す。</li> <li>4月段階でWeekly宿題の年間計画を提示し、生徒にも家庭学習の見直しを立てさせる。</li> <li>学年で組織的にチェックを行うなどし、習慣の定着と丁寧な指導を行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習は、家庭が主体であり、生徒個々のやる気も大きく影響するので、学校の方だけで家庭学習の習慣を定着させるのはむずかしいのではないかと考えている。</li> <li>秋田県や福井県など、家庭学習の定着が進んでいるところの取り組み（本校より家庭学習の課題を多く設定し、学校や学年で組織的に取り組むことにより学習習慣を定着させる等）の中で、荒牧中学校に取り入れられることを模索してみてもどうか。</li> <li>中学校に入る前の習慣づけは家庭の方でも行うべきである。また、小学校との連携も考えてみるかどうか。</li> </ul>                        |
|                       | 読書活動の充実       | <ul style="list-style-type: none"> <li>読書活動の習慣化、定着化を図る。</li> <li>読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>全校一斉の朝読書の時間を毎日10分設ける。</li> <li>各クラスに朝読書用集団読書を毎月ローテーションで配架する。</li> <li>年度末に貸出数の多かった生徒を表彰する。</li> <li>ビブリオバトルや読書紹介等を国語科等の授業で行い、各自の読書活動を見直したり、振り返る活動を取り入れ、各自の読書の幅を広げる。</li> <li>国語科以外でも図書館を利用していく。</li> <li>「図書館まつり・荒中古本市」等、PTAや各家庭への協力をお願いしながら図書館運営をすすめる。</li> <li>「図書館だより」や「新刊案内」を工夫して、学校での取り組みを紹介し、家庭での読書習慣につなげる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1人あたりの1月あたりの読書冊数目標3.5冊・1ヶ月の図書貸出数を前年度より10%増</li> </ul> | B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>1人あたりの読書冊数は、3.2冊となり目標には届かなかった。しかし、貸し出し冊数は12月末現在で9755冊で、21.7%アップした。（昨年7520冊）</li> <li>生徒アンケートでは、「読書に力を入れている」と回答した生徒が、中間75%、期末72%（前年76%）と、同程度またはやや下がり気味である。保護者アンケートは、中間85%（理由不明）、期末66%（前年度68%）である。それに対して、職員アンケートでは、担任の先生を中心に各先生方に御協力いただいているので、9割前後と高めである。</li> <li>1、2年とも全員にビブリオバトルに取り組ませた。市内大会で優勝し県大会に出場した生徒もいた。</li> <li>国語科以外の教科（理科など）でも、調べ学習等で図書室の本が活用されるようになってきている。各教科図書室の本を活用し、アクティブラーニングを進めてもらえればと考えている。</li> <li>修学旅行やトライやる・ウィーク等の行事の調べ学習では、図書室の本がかなり活用されている。</li> <li>図書館祭りは生徒、お話しメンバーのそれぞれの出し物、古本市、どれも盛況であった。</li> <li>給食開始後どうやって本の貸し出し時間を確保するかが最大の課題である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習用の資料をもっと増やす。</li> <li>各教科で使う予定の本、資料等を早めに注文しておく。</li> <li>給食開始後の6月からは本の貸し出し時間を確保する方法を工夫する。（放課後の開館など。）</li> <li>図書だより、学校だより、ホームページ等により学校で行っている読書活動について、保護者や地域に周知する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>評価が数値として表れていないのは、読書がすでに習慣化されていて「本を読むことが当たり前」の状態になっているからではないかと考えている。</li> <li>場所が遠い、時間がないなど図書室に行くことが面倒な生徒もいるのではないかと考えている。教室など身近なところに本を置き、気軽に本を手に行ける環境を作ってみてはどうだろうか。</li> <li>読書感想文コンクール、おすすめ本の紹介など、読書に興味を持たせるような取り組みを図書室以外の場所でも広く行ってはどうだろうか。</li> <li>地域と連携して、土・日の図書館開放を行うことはできないだろうか。</li> </ul> |

平成28年度 学校評価総括表 伊丹市立 荒牧中学校

| 教育目標       |         | 自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成 ～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～   |   |  |  |   |  |  |
|------------|---------|--|---|--|--|---|--|--|
| 重点目標       |         | ①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成 ③開かれた信頼される学校づくり  |   |  |  |   |  |  |
| 項目         | 重点項目    | 具体的施策  | 達成目標  | 自己評価   | 成果と課題  | 改善策   | 学校関係者評価  |  |
| 豊かな心・健やかな体 | 不登校への対応 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒数を減少させる。</li> <li>・「1日目の欠席」でも理由により家庭訪問を行うとともに、保護者との連絡のため粘り強い働きかけを行う。</li> <li>・「2日目の欠席」は、家庭からの連絡の有無にかかわらず、担任が放課後家庭訪問する。</li> <li>・「3日目の欠席」は、家庭からの連絡の有無にかかわらず、担任と学年教師が家庭訪問をする。</li> <li>・「4日目以降、連絡しての欠席」は、他の職員の支援を得て、いっそう保護者との連携に努める。</li> <li>・心と体のアンケート内容の充実を図り、アンケートを実施し、指導に生かす。</li> <li>・職員間で連携を取り複数で対応するとともに、関係機関との連携を積極的に行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒数を前年度と比べ10%以上減少させる、かつ、生徒アンケートにおいて「学校に行くのが楽しい」と回答した割合が80%以上になる。</li> </ul>  | C  | <p>数値目標は2つとも達成することができなかった。不登校生徒数は昨年同時期と比較すると、35名が39名と約10%増加した。また、「学校が楽しい」の回答は75%で目標の80%を下回った。担任は頻りに家庭訪問を行い、学年教員やスクールカウンセラー、総合教育センター、小学校の先生、医師等と連携し、個々の生徒に働きかけを続けている。また、スクールソーシャルワーカーとの連携強化を図り、ケース会議をたびたび開催した。なかなか登校に結びつかないことも多いが、今後も粘り強く本人や保護者に働きかけを続けていくことが大切である。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き学年教員や関係機関との連携を図りながら、長期的な目標を持って、働きかけを続けていく。</li> <li>・不登校の状況シートを有効に活用し、学年で情報を共有していく。</li> <li>・学級での居場所づくりができるよう一層仲間づくりに力点を置いた学級経営を行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーの活用、別室登校の活用、家庭訪問など、学級に入れない生徒の状況に応じて対応されていることは評価できる。</li> <li>・不登校生徒個々の態様に応じて、別室指導のあり方の工夫や、欠席日数が少ない段階で早期に対応し教室に入りやすくするような方法があればよいのではないかと。</li> <li>・日頃から学級等での友達の関わり合いを大切に、クラスに復帰した際に本人が安心して通えるような態勢づくりがあればよいのではないかと。</li> </ul> |  |
|            | 生徒指導    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導に取り組む。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導係を定期的に開催し、全職員が同一歩調で指導するよう努める。</li> <li>・毎時間校内巡回を行う。</li> <li>・係会での確認事項を学校・学年での共通理解事項としていく。</li> <li>・生徒に関しての情報交換を密に行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、生徒アンケートにおいて「学校は適切に生徒指導をしている」と回答している割合を80%以上にする。</li> <li>・教職員アンケートにおいて「組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合を80%以上にする。</li> </ul>                                  | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、生徒アンケートにおいて「学校は適切に生徒指導をしている」と回答している割合が83%なので一定の評価はできる。</li> <li>・学年内および学年を超えた生徒の情報交換は密に行うことができた。</li> <li>・部活動と学年（学級）との情報共有の仕方に課題がある。</li> <li>・教師アンケート「組織的な生徒指導に取り組んでいる」と回答した割合が79%だったので今後の課題としたい。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月当初の「生徒指導推進計画」「生徒指導具体的方針」を確認し、徹底して行う。</li> <li>・学年と部活動との情報交換を密にしていく必要がある。</li> <li>・学年内、学年間、生徒指導主事、管理職との報・連・相を随時、適切に行う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が一斉に集まれない場面で即時に情報共有が必要な場合、ホワイトボードを活用するなど、情報共有のためのツールを工夫してはどうか。</li> <li>・生徒指導面で最近学校で困っているライン等のSNSによるトラブルについて、生徒や保護者への啓発を引き続き行う必要がある。</li> </ul>  |
|            | いじめへの対応 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談やアンケート調査を実施し実態把握を行い、早い対応を行う。</li> <li>・Q Uアンケートを2回実施し、学級運営に活かしていく。また、1回目終了後にQ Uの活用法について研修し、今後の学級経営に生かしていく。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめられていると感じない生徒を90%以上にする。</li> <li>・いじめられていると感じる生徒を0にする。</li> </ul>  | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめられていると感じない生徒を90%以上にすることができた。「とても感じる」の項目を0%にすることができなかった。</li> <li>・アンケートの質問内容が、現在のことか以前のことが分かりにくい文面になっていた。</li> <li>・いじめられた被害者だけでなく加害者にも目を向けていく必要がある。</li> <li>・Q Uの活用法について研修し、学級担任が1人1人の生徒の状況を分析することができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が答えやすいように、アンケートの選択肢を「現在～感じている」とする。</li> <li>・Q Uについては、学年で情報を共有する機会をとっていく。</li> <li>・無記名ではあるが、アンケートの結果を担任は把握しておく。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他市で学校の状況が良くなってきているという中でも、いじめによる事件が起きたことがあると聞く。常に個々の生徒の状況を多面的に把握しておくことが大事だと考える。</li> <li>・教員の指導のあり方が、生徒同志の関わり方や人間関係に影響を与えることもあるので、生徒に寄り添い共感的に話を聴くスキルを常に研鑽する必要がある。</li> <li>・生徒の心の耐性について、小学校からも十分情報を得て共有し、個別の対応や生徒同志の人間関係づくりの際の配慮に活かしてはどうか。</li> </ul> |
|            | 道徳教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「心の教育」を推進する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳を中心に全ての教育活動を通じて、命の大切さ、相手を思いやる心を育む。</li> <li>・指導案や教材を学年で共有できるようにする。</li> <li>・「朝のあいさつ運動」をはじめ、教育活動全般であいさつの定着を図る。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」の割合を80%以上にする。</li> </ul>   | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」の割合が、85%になり取り組みの成果があらわれた。</li> <li>・研修会を開き、学年間で打ち合わせを重ねることによって、職員間の道徳の授業に対する意識が高めることができた。</li> <li>・打合せ等は行えたが、役割分担等が定着せず、また特定の教師だけで検討してしまう傾向にある。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究会の回数を増やし、授業の目標について学年で教材を検討するなど、学年・学校全体の体制を整える。</li> <li>・学年同士の交流、三年間を見通した計画を作成する。</li> <li>・教育活動全般において、他者を思いやり、自分を高めようとする心を育てる活動を検討する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・設問について「自分を大切に～教えてもらっている」とあるが、教えてもらったことを実際に活かしているかどうかを問うべきではないかと。</li> <li>・最近の子どもは簡単に「死ぬ」「殺すぞ」ということばを口にする。命の重さ、大切さ、「生死」について大人が向き合いつつと教える必要がある。そこから他者に対する優しさも育つのではないかと。</li> </ul>  |
|            | 体力の向上   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業を通して、体力の向上を図るとともに、自己の健康面に対する意識を高める指導を行う。</li> <li>・部活動では競技力の向上に努める。</li> <li>・教師からの説明を分かりやすく簡潔にまとめ、活動時間を増やす。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツテストバッジ受賞者は3年生70%、2年生60%、1年生30%を目指す。</li> <li>・タイムトライアルの自己ベストタイムを80%以上にする。</li> <li>・保健だよりについては、熱中症やインフルエンザなどの主要なものについてもHPに掲載し、より細かい情報を発信する。</li> </ul> | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの説明を分かりやすく簡潔にまとめ、活動時間を増やすことができた。</li> <li>・スポーツテストバッジ受賞者は3年生61%、2年生46%、1年生28%であった。</li> <li>・タイムトライアルは、トップ10と自己目標の2つの評価を設け、苦手な生徒も前向きに取り組んでいた。しかし、3年生には条件が少し厳しく、思うような結果が出なかったことが課題として残った。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動では競技力の向上に努める。</li> <li>・保健だよりについては、怪我や感染症などだけでなく、学校生活で気になることなど幅広い面での気付きをHPに掲載する。</li> <li>・3年生は部活引退後、授業でのトレーニング回数を増やすなどして体力の維持に努める。</li> <li>・体育大会終了後からタイムトライアルまでの授業で5分間走を実施する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツバッジテストについて、トータルで優秀な生徒を表彰することも良いことだと思うが、個々の種目に秀でている生徒を表彰することが、生徒の意欲をさらに高めるのではないかと。</li> <li>・部活動のあり方について、どのレベルを目指すかを顧問、保護者、生徒が十分に意思疎通しベクトルを同じくすることが、有意義な部活動にするために必要ではないかと。</li> </ul>   |

| 教育目標  |                                | 自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成 ～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～   |  |      |  |   |   |
|---|--------------------------------|--|--|------|--|---|---|
| 重点目標  |                                | ①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成 ③開かれた信頼される学校づくり  |  |      |  |   |   |
| 項目  | 重点項目                           | 具体的施策  | 達成目標   | 自己評価 | 成果と課題  | 改善策   | 学校関係者評価   |
| 開かれ信頼される学校園   | 学校情報の積極的な発信<br>・積極的に学校情報を発信する。 | ・オープンスクール週間や、授業参観を実施し保護者や地域の意見を学校運営に活かす。<br>・学校だよりを発行し、地域にも配布する。<br>・学校ホームページをタイムリーに更新し、学校情報を積極的に発信する。<br>・保健だよりなどを通して、健康管理の啓発を行う。 | ・学校だよりを発行する。<br>・自校のホームページをタイムリーに更新する。<br>・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。<br>・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が80%以上となる。 | B    | ・「学校は、学校の情報を学校だよりやHPを通じて保護者に伝えている。」と回答した割合が90%であった。<br>・上記の結果を上回るよう、情報発信（学校だより、ホームページの生徒会、部活動、学年だより、お知らせ等）をさらに充実したものにすることが課題である。<br>・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が85%であった。<br>・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が74%であった。 | ・アンケート結果や保護者の意見を考慮し改善していく。<br>・情報発信（学校だより、ホームページの生徒会、部活動、学年だより、お知らせ等）をさらに充実したものに改善する。<br>・家庭訪問や懇談会等で出た意見を必要に応じて学年、学校内で共有し、改善できるものについて手だてを講じる。 | ・学校から情報発信はこまめにされており、ホームページの閲覧数等も伸びている。<br>・保護者の一番の願いとして、「学力向上」という声をよく聞く。<br>家庭で家族との時間を大切にすることもふまえた上で、学習と部活動との両立をさせるために、顧問、保護者、生徒が互いに部活動の目指すところを理解した上で休養日を設定すればよいのではないか。 |
| <b>学校関係者評価総括</b><br>・不登校の問題については、C評価であったが、全体的にはB（目標どおりに達成できた）との自己評価であり、学校の取り組みとしてはよくがんばっていると評価する。<br>あとは、保護者の一番の願いである「学力向上」に向けて力を注いでいただきたい。先生方の授業改善に関する研修が進み、それに伴い、生徒が学習するための仕組みづくりについても「MY学」をはじめ、コミュニケーショントレーニング、週末課題等、具体的に進んでいることを実感する。現在、学校で行っている情報発信の中に、「学力向上」についての取り組みも工夫して入れ込み、保護者や地域も巻き込み、大人の教育力を引き出し、子どもの学力を伸ばしていただきたい。また、多様な社会状況の中で、生徒の心の耐性について、小学校とも連携し、様々な体験をとおして「心の強さ」を育てていただきたい。一方、子どもの貧困が言われる今日、「食」とおしてひとりでも多く活力ある生徒を育てるきっかけとして中学校給食に大きな期待を寄せている。今後も、きめ細やかにひとり一人の生徒に寄り添った教育活動を展開していただきたい。 |                                |  |  |      |  |   |   |
| <b>次年度に向けた重点的な改善点</b><br>・教員個々の考え方が様々ある中で、いかに同じ方向に向かって到達点とそのための手法について共通理解と実践が行えるかが鍵となる。管理職を中心に、常に、危機感を持ちながら協働体制をどう作るかが大切である。生徒の状況を組織体制で多面的にとらえ、かつ生徒相互の教育力も活かしながら生徒の「生きる力」を育ててほしい。一方で、いつも悲観的にばかり捉えるのではなく、教員も生徒も、自信を持って教育活動に取り組んでいただきたい。部活動や行事は、成果が目に見える形であらわれ、また達成感も大きい。ゴールを明確にして計画的に物事に取り組み、成果を実感させ達成感を味わわせることにより、子どもに自信をつけて、学習面での自信と意欲につなぐ。「PDCA」に基づいた継続的かつスパイラルな取り組みにより、校長が目指す「自信と誇りの持てる荒牧中学校」となるよう邁進していただきたい。  |                                |  |  |      |  |   |   |

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った